

2019 年 6 月

岡山大学薬学部 FD 白書

2018

目次

1. はじめに	1
2. 授業改善の PDCA サイクル	2
2-1. シラバス	2
2-2. 教授法	8
2-3. 授業評価	8
2-3-1. 学生による授業評価（薬学版）	12
2-3-2. 同僚による授業評価	15
2-3-3. 自己による授業評価	17
3. FD フォーラムについて	20

補足資料については、薬学部ウェブサイト学内限定ページで公開

補足資料1：学生による授業評価（全学版）結果

補足資料2：学生による授業評価（薬学版）結果

補足資料3：同僚による授業評価結果

補足資料4：自己による授業評価結果

1. はじめに

岡山大学薬学部では FD 活動の足跡を明文化し、これまでの FD 活動を見直すとともに、今後の FD 活動の礎にすべく、2008 年度（平成 20 年度）に FD 白書（初版）を作成し、その後 3 年間にわたって追補版を作成してきた。2017 年度（平成 29 年度）に第 2 版となる FD 白書を作成したため、2018 年度の活動記録をその追補版としてまとめた。

2018 年度の FD 委員会構成員および活動内容は以下の通りである。

➤ 構成員

委員長：上田真史

委員：井上剛、神野伸一郎、小山敏広、高杉展正、竹内靖雄（50 音順）

➤ 活動

- ・ FD フォーラム
- ・ 学生による授業評価（全学版）ウェブ化に伴う対応
- ・ 薬学部 FD 委員会アンケートのウェブ化
- ・ 学生による授業評価（薬学版）
- ・ 同僚による授業評価
- ・ 自己による授業評価

なお、2018 年度末に薬学部内委員会の再編があり、他学部における FD 担当の現状も鑑み、2019 年度からは独立した委員会としては存在せず、教務委員会内に FD 担当が数名おかれ、引き続き FD 活動を行っていくこととなった。

2019 年 6 月
上田 真史

2. 授業改善の PDCA サイクル

本学部授業は、Plan, Do, Check, Action を取り入れた PDCA サイクルによって改善を目指している。本委員会では、シラバス（P）や教授法（D）はもとより、評価（C）に特徴的な戦略を立案し、PDCA サイクルの中で最も重要な鍵を握る Action 部位の重点化を明示させることによって、次世代サイクルへの円滑な移行をサポートしている。（2008 年度 FD 白書から再掲）

2-1. シラバス

岡山大学のシラバスの様式は全学で統一されており、薬学部でもそれを利用して専門授業科目のシラバスを作成している。2017 年度版シラバスから全学統一フォーマットが改変され、大枠はそれを維持しつつ、年度ごとに改訂が行われている。2018 年度には、授業形態の一部項目（アクティブラーニングやメディア使用の頻度など）があり・なしの 2 段階評価から 5 段階評価となった。2019 年度には、岡山大学が全学的に取り組んでいる Sustainable Development Goals（SDGs）の達成に向けて、授業内容と関連する SDGs の目標の入力欄が設けられた。

フォーマットの統一に加え、下記の基本方針（2017 年度版 FD 白書に記載）に従ってそれぞれのシラバスを作成することで、薬学部では記載内容の統一も図っている。

【基本方針】

- ・学習者を主体（主語）にした、分かりやすい表現のシラバスを作成する。
- ・薬学科のシラバスではコアカリキュラムを意識した内容とする（各授業回の SBO の明記）。
- ・成績評価基準の記述はできるだけ曖昧さを排除する。

2019 年度版シラバス（2018 年度中に作成）については、基本方針に加えて、それぞれの項目での記入内容を下記の通り具体化し、教務委員会での確認・修正を行うことで、より統一性を持たせたシラバスを作成した。

- ・学部・研究科独自の項目に、①SBO 内容の教授時間の割合、②主責任科目の SBO、③基礎となる授業科目、④発展する授業科目を明記する。
- ・授業計画の各授業回に SBO 明記を徹底する。
- ・成績評価の項目に、①評価方法・評価基準、②評価者、③評価時期、を明記し、シャトルカードの使用・出席要件・再試験などについての情報も必要に応じて記入する。

具体例として、分析科学 4 のシラバスを 3～4 ページに示す。また、実習など試験によらずに成績評価を行う授業科目については、態度・技能などを評価するためのルーブリックを作成し、それをシラバスからリンクさせることで、学生にも評価基準を周知している。具体例として、卒業論文実習のシラバスとルーブリックを 5～7 ページに示す。このルーブリックは、ルーブリック評価とスケール評価を混合することで評価しやすく工夫した岡山大学薬学部独自のものであり、成績評価後に検証を行って、2017 年度 FD 白書に掲載したバージョンに改訂を加えたものである。

🔍 シラバス参照

授業基本情報

講義番号	084204
授業科目	分析科学 4
担当教員（所属）	上田 真史（08：薬学部）
学期	2019年度 Q：4学期
曜日・時限	火曜3，火曜4
単位数	0.75
教室	薬学部大講義室
ナンバリングコード	NDAB0PHPZ1008N
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2019&shozoku=0841&jikanwari=4204&sylocale=ja_JP
科目区分	専門科目
対象学生	1年次
必修・選択の別	必修
他学部学生の履修の可否	否
連絡先	086-251-7990（上田） mueda（@）okayama-u.ac.jp（上田） ※スパムメール防止のため（@）と表示しています。送信時は（ ）を削除し、@を半角の@に修正すること。
オフィスアワー	特に指定せず、質問などは随時受け付ける。メールで事前に都合を確認すること。
学部・研究科独自の項目	【SBO 内容の教授時間の割合】 90% 【主責任科目のSBO】 C2-(4)-②～⑤ 【基礎となる授業科目】 物理化学 2 【発展する授業科目】 分子構造解析学、卒業論文実習
使用言語	日本語
授業の概要	薬学において必須の各種機器分析法について、それぞれの測定原理や特徴、実際の利用例など講義形式で概説する。
学習目的	該当なし
到達目標	薬剤師や創薬研究者に必要な分析技術に関する基礎知識を習得するために、各種機器分析法に関する測定原理とその応用について説明できる。
授業計画	【授業計画】 第1回 核磁気共鳴Ⅰ C2-(4)-②-1 第2回 核磁気共鳴Ⅱ C2-(4)-②-1 第3回 電子スピン共鳴・熱分析 C2-(4)-⑤-1,2 第4回 X線分析法 C2-(4)-④-1,2 第5回 質量分析法Ⅰ C2-(4)-③-1 第6回 質量分析法Ⅱ C2-(4)-③-1 第7回 試験 【予習】 各授業の内容について教科書で予習しておくこと。 【復習】 毎回の授業で宿題を課すので、次の授業までにやっておくこと（次回授業冒頭で学生を指名して答え合わせをする。解答内容は成績評価には含めない）。 教科書・参考書・配布プリント・授業の撮像映像を活用して復習すること。 【成績評価への反映】 予習・復習による成果物については、成績評価には反映しない。 しかし、薬学部の授業を理解するためには予習・復習の積み重ねが大切である。授業中に板書やスライドを写したノートで復習段階で自分なりに主体的にまとめたノートを作る等、日頃から授業概要を掴もうとする努力が試験対策へとつながる。
(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合	90%：10%
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)	少ない
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)	少ない
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)	多い
(3)授業形態-実践型科目タイプ	該当しない

(4)授業形態-履修者への連絡事項	毎回スライドと板書を併用して授業を行う。 特別な配慮を必要とする場合は、事前にご相談ください。
使用メディア・機器・人的支援の活用- 視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用- 学習管理システム(Moodleなど)	なし
使用メディア・機器・人的支援の活用- 人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	なし
使用メディア・機器・人的支援の活用- 履修者への連絡事項	毎回スライドを使用する。 特別な配慮を必要とする場合は、事前にご相談ください。
教科書	【教科書】 「パートナー分析化学Ⅱ」(南江堂)
参考書等	【参考書等】 【評価方法・評価基準】期末試験の成績で評価する。 【評価者】授業担当教員 【評価時期】学期末
成績評価	【シヤトルカード】 使用する。 双方向性授業のため、宿題の解答や授業内容に関する質問を記入させ、それに対してコメントするが、成績評価には含めない。
担当教員の研究活動との関連	【研究活動との関連】 担当教員は生体分子イメージングに関連した研究を行っている。この講義は、生体分子イメージング研究に必要な各種機器分析法の学問的基礎部分を解説するものである。
受講要件	特になし
教職課程該当科目	この項目は当該科目には該当しない
JABEEとの関連	該当なし
主なSDGs関連項目1	3 すべての人に健康と福祉を
主なSDGs関連項目2	該当なし
主なSDGs関連項目3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目	
備考/履修上の注意/実務経験の内容	【再履修等の注意】 「分析科学3」「分析科学4」の両方を修得した場合のみ、平成24～27年度以前入学者は「分析科学Ⅱ」、平成23年度以前入学者は「薬品分析学Ⅱ」に読替える。

コンピテンシー

【教養】多様な問題に関心を持つ力	4%
【教養】多角的・論理的に考える力	3%
【教養】医療人としての人間力	3%
【専門性】総合科学の基礎的な知識	70%
【専門性】総合科学の基礎的な技能	
【専門性】医薬品に関わる専門的な知識	20%
【専門性】医薬品に関わる実践的な技能	
【専門性】臨床研究に関わる基礎的な能力	
【情報力】情報収集・分析力	
【情報力】情報活用力	
【情報力】情報発信力	
【行動力】コミュニケーション能力	
【行動力】共感できる力	
【行動力】課題を発見・解決する力	
【自己実現力】セルフマネジメント力	
【自己実現力】自己研鑽力	
関連割合の合計	100%

🔍 シラバス参照

授業基本情報

講義番号	082971
授業科目	卒業論文実習（卒業制作物を含む。）
担当教員（所属）	各教員（08：薬学部）
学期	2019年度　Q：特別
曜日・時限	
単位数	12
教室	未定／別途指示
ナンバリングコード	NDAZ2PHPZ6001N
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2019&shozoku=0841&jikanwari=2971&sylocale=ja_JP
科目区分	専門科目
対象学生	5,6年次（薬学科）
必修・選択の別	必修
他学部学生の履修の可否	否
連絡先	各担当教員の電話番号・Eメールを参照。
オフィスアワー	各担当教員にアポイントをとること。
学部・研究科独自の項目	【独自科目】 【基礎となる授業科目】　すべての履修科目 【発展する授業科目】　最終授業科目になる
使用言語	日本語
授業の概要	「研究とは何か」の解を求めるべく、専門領域の研究を行う。研究結果は、「卒業研究発表会」（発表要旨）および「卒業論文」として明文化する。
学習目的	該当なし
到達目標	薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。
授業計画	■担当指導者から課題が提示されるが、卒業研究の一般目標は以下になる。 ・将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 ・将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 ・研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 ■全履修者およびそれらの指導者が参画の公開「卒業研究発表会」を教務委員会主催で開催する。本発表会は、その研究内容が6年制薬学科の卒業論文として適合しているかどうかを第三者に問う審査会とする。実施要領の詳細については、追って連絡する。
授業時間外の学習(予習・復習)方法 (成績評価への反映についても含む)	担当教員が指示する。
(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合	10%　：　90%
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)	多い
(3)授業形態-実践型科目タイプ	該当しない
(4)授業形態-履修者への連絡事項	研究・実習・実験
使用メディア・機器・人的支援の活用-視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-学習管理システム(Moodleなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-履修者への連絡事項	担当実習によって異なる

教科書	【教科書】 各指導教員により、必要に応じて指定されることがある。
参考書等	【参考書等】 各指導教員により、必要に応じて指定されることがある。
成績評価	【評価方法・評価基準】 ・所定以上の研究時間が証明できるものがあること(提出を求めることがある) ・卒業論文発表会要旨」が提出されていること(指導者から承認を得たもの)(25点) ・「卒論論文」が提出されていること(指導者から承認を得たもの)(25点) ・ループリック評価」(50点) ・上記資料とともに取り組む姿勢や発表能力等で判断する。 【評価者】授業担当教員(配属研究室の指導教員) 【評価時期】6年次12月 【ループリックURL】 http://owl.pharm.okayama-u.ac.jp/system/sbbs/kanpo/sr2_bbs_img/142_1.pdf 【出席について】360時間(12単位×30時間)以上
担当教員の研究活動との関連	【研究活動との関連】 各担当教員は、薬学の研究を行っている。本実習は、各担当教員の専門分野である薬学の研究基礎部分を教示するものである。
受講要件	【基礎となる授業科目】全履修科目
教職課程該当科目	この項目は当該科目には該当しない
JABEEとの関連	該当なし
主なSDGs関連項目1	3 すべての人に健康と福祉を
主なSDGs関連項目2	4 質の高い教育をみんなに
主なSDGs関連項目3	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
実務経験のある教員による授業科目	
備考/履修上の注意/実務経験の内容	■発表様式は、前年度と異なる可能性があるので、掲示・案内に注意を払うとともに、4月初頭のオリエンテーションには必ず出席すること。 ■必修科目であることに留意し、成績評価エビデンスの作成に失念なきよう、務められたい。 ■履修登録は6年次に卒業論文発表会後、薬学部教務学生担当で行うので学生は履修登録しないこと。

コンピテンシー

【教養】多様な問題に関心を持つ力	5%
【教養】多角的・論理的に考える力	5%
【教養】医療人としての人間力	5%
【専門性】総合科学の基礎的な知識	5%
【専門性】総合科学の基礎的な技能	5%
【専門性】医薬品に関わる専門的な知識	5%
【専門性】医薬品に関わる実践的な技能	5%
【専門性】臨床研究に関わる基礎的な能力	5%
【情報力】情報収集・分析力	5%
【情報力】情報活用力	5%
【情報力】情報発信力	5%
【行動力】コミュニケーション能力	5%
【行動力】共感できる力	5%
【行動力】課題を発見・解決する力	25%
【自己実現力】セルフマネジメント力	5%
【自己実現力】自己研鑽力	5%
関連割合の合計	100%

薬学科6年次生, 創薬科学科4年次生対象
卒業論文実習の成績評価のための評価基準(ルーブリック)

2019/4 教務委員会

評価基準項目	3:よくできている 2:どちらかというとできている 1:どちらかというとできていない 0:できていない	A	B	C	D	E
基本的事項	① 心身ともに健康に研究室生活を過ごす。 ② 研究室員としてのルールやマナーを守り, 周りとの協調性を持って研究に取り組む ③ 相手の視点に立って相手の考え方や感情を理解する(共感力を有する)。 ④ 研究活動中に生じたトラブルを指導者や研究室員に速やかに報告・相談し対処する。 ⑤ 研究の各プロセスを正確かつ丁寧にノートなどの媒体へ記述し, 保管する。 ⑥ 教育的見地から研究室員同士, 互いに高めあう。	18-15点	15-13点	12-10点	9-7点	6-0点
実践的事項	① 研究倫理を遵守し, 研究に取り組む。 ② 研究活動に関わる諸規則や指針を理解したうえでそれらを遵守し研究に取り組む。 ③ 研究活動を通じて, 創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り, 感動する。	9-7点	6-4点	3-0点		
計画	① 研究テーマの背景や意義を理解する。 ② 研究テーマに関連する知識を能動的に得る。 ③ 得られた知識から論理的な研究プロセスを組み立てる。 ④ 研究テーマにおける問題点(課題)を抽出する。 ⑤ 問題点(課題)を解決するための適切な研究方法を立案する。	15-13点	12-10点	9-7点	6-4点	3-0点
実験	① 研究に用いる薬品, 器具, 機器等を正しく取扱い, 管理する。 ② 確固たる技術の基に, 正確に研究を遂行する。 ③ 得られた実験結果が合目的であるか客観的に判断する。 ④ 得られた結果を適切な形式で図表やグラフなどにまとめる。 ⑤ 適切な記述がされた実験ノートなどの媒体を作成する。 ⑥ 得られた研究結果における問題点を見いだし, 適切に改善する。	18-16点	15-13点	12-10点	9-7点	6-0点
まとめ・考察・発表	① 得られた研究結果を適切に説明する。 ② 得られた結果が示唆する事柄について, 先行研究を適切に引用しながら, 論理的に考察する。 ③ 研究の成果を発表し的確に質疑応答する。 ④ 得られた結果を論文として纏め上げる。 ⑤ 得られた研究成果に基づいて, 次の研究課題を提案する。	15-13点	12-10点	9-7点	6-4点	3-0点
その他 (評価者独自の項目)	評価者が作成	評価者が作成	評価者が作成	評価者が作成	評価者が作成	評価者が作成

2-2. 教授法

2008 年度 FD 白書で述べられているように、薬学部では教員免許をもたない教員が殆どであり、教授法についての研修の重要性は極めて高い。FD 委員会では、他の教員の授業を参観することが最も効果的な教授法改善策であるという考え方のもとに、1) 全専門科目を公開授業とし、2) 授業参観、あるいは同僚評価という形式で他の教員の授業を参観する機会を増大させることに注力してきた。

岡山大学薬学部では、2014 年から授業撮像システムを整備し、パスワードを入力すれば任意の場所・時間に視聴できる授業ライブラリを構築してきた。ここ数年は、このライブラリを利用した授業参観・同僚評価が年間 10 件程度行われている（2018 年度に関する詳細は 2-3-2 を参照）。

他方、この授業ライブラリは学生の予復習にも活用されてきた。シャトルカードの感想や授業評価アンケートでも好評であったものの、授業を休みがちな学生と面談をしたところ、「撮像データを見て自主学習できるので休んだ」と答える学生が何名かいたことから、その発言の真偽は不明であるものの、2018 年度 4 学期からは、当該年度に撮像したデータの学生へのリアルタイム公開は取り止めている。

2-3. 授業評価

岡山大学では、全学の FD 委員会主導で、授業評価アンケートがほぼ全ての講義を対象に実施されている。2018 年度に起こった大きな変革として、これまでは紙（マークシート）で回答していたものがウェブ（Moodle）のみで実施されるようになった。任意の場所とタイミングで回答できるのがウェブアンケートの利点であるが、2017 年度中にトライアルでウェブアンケートを実施したところ、授業中などに時間を設けて回答させなければ、紙アンケートに比べて回答率が極端に低くなることが分かった。ある程度の回答率がないと結果を分析し、授業改善につなげることが出来ないため、9～11 ページに示す案内を作成し、2017 年度末の教員会議で配布して全教員に周知するとともに、2018 年 1 学期のアンケート実施時期にはメールで全教員宛に再送して、確実なアンケート実施を今一度呼びかけた。集計結果は補足資料 1 に示すが、回答率は概ね 70%以上であり、紙アンケート時代の回答率（ほぼ 100%）よりは低下したものの、結果分析に足る回答率は維持されたと考える。

特に回答率が高かった授業については、実施方法を担当教員に照会し、結果を取りまとめて全学 FD 委員会に情報提供を行った（下記）。

3) 高い回答率が得られた講義での授業評価アンケートの実施方法の紹介

回答率が 90%以上であった 12 授業科目の担当者に実施方法を尋ね、下記の回答を得た。

- ・最後の授業あるいは期末試験時に時間を設けて回答させ、未回答学生に催促した（3 名）
- ・最後の授業あるいは期末試験時に時間を設けて回答させ、未回答学生に催促せず（8 名）
- ・iPad やスマートフォンを使うシナリオ課題解決型のグループ討論授業なので（1 名）

Moodle での授業評価アンケートについて

薬学部 FD 委員会

4 月からの実施が正式決定した（紙に戻ることはない）。

【これまでのアンケートからの変更点】

- ・ 回答項目がややシンプルになった。

Q1: この授業を振り返って、以下の項目に対し、どのように思うかを教えてください。
あてはまらない場合は、「どちらともいえない」を選んでください。

		回答選択肢		
→	1	シラバス記載の学習目標に応じ、充実した授業内容になっていましたか。	なっていた。	どちらともいえない。 なっていない。
→	2	教員の説明や指示はわかりやすかったですか。	わかりやすかった。	どちらともいえない。 わかりにくかった。
→	3	板書やスライドなどはわかりやすかったですか。	わかりやすかった。	どちらともいえない。 わかりにくかった。
→	4	教科書や配付資料などの教材は適切でしたか。	適切だった。	どちらともいえない。 適切でなかった。
→	5	授業の時間配分や内容量は適切でしたか。	適切だった。	どちらともいえない。 適切でなかった。
→	6	予習復習や課題など自習に関する指示は適切でしたか。	適切だった。	どちらともいえない。 適切でなかった。
→	7	教員は熱意を持って授業に取り組んでいましたか。	取り組んでいた。	どちらともいえない。 取り組んでいなかった。
→	8	学修しやすい環境づくりがなされていたか（私語対策など）。	なされていた。	どちらともいえない。 なされていなかった。
→	9	積極的な参加を促すような教員からの問いかけや対話がありましたか。	あった。	どちらともいえない。 なかった。
→	10	成績評価の方法は適切だと思いますか。	適切だった。	どちらともいえない。 適切でなかった。

Q2: あなたは、この授業に能動的に参加し、予習・復習を行うなど、意欲的に取り組みましたか。

	非常に意欲的に取り組んだ
	やや意欲的に取り組んだ
	どちらともいえない
	あまり意欲的に取り組まなかった
	全く意欲的に取り組まなかった

Q3: この授業全体に対するあなたの評価（満足度）を教えてください。

	非常に良い
	良い
	どちらともいえない
	悪い
	非常に悪い

Q4: その他、この授業について、優れている、改善が必要と思う点など、詳しく伝えたいことがあれば、以下に記載してください。

自由記述

- ・ 講義番号ごとにアンケートが設定されるので、薬・創薬それぞれで結果が集計される。
- ・ 原則 5 名以上の登録者がいる授業にアンケートが設定されるので、少数意見を知りたい場合はアンケート設定を教務に依頼する必要がある。

【実施方法（提案）】

配布資料のある授業：

「Moodle による授業評価アンケートの実施手順（学生用）」を一緒に配布

配布資料のない授業（アンケート手順を配布したくない場合も含む）：

「Moodle による授業評価アンケートの実施手順（学生用）」をスクリーンに映写

+

下記枠内の※部分の内容を口頭で指示

※「岡山大学 moodle（片仮名でムードルでも可）」で検索し、（恐らく）トップに表示される「岡山大学 moodle」にアクセスあるいは <https://moodle.el.okayama-u.ac.jp/> をブラウザに入力

※初めてアクセスした場合は必ず URL をブックマークさせる

（1Q 半ば以降からは「ブックマークから Moodle にアクセスして・・・」という指示が使えるはず）

↓

※ログインをクリックして各自の岡大 ID とパスワードを入力し、Moodle にログイン（履修登録済みの授業科目が一覧表示される）

↓

※当該授業科目を選択して回答開始

※「回答を送信する」を必ずクリックさせる

【注意点】

1. 回答できるのは1回限りで、授業科目の選択ミスを検知する機能はない。
（例）分析1のアンケートに答えるつもりで有機1を間違って開いて回答送信してしまうと、有機1の回答として記録され、それを取り消すことは出来ない。
→アンケート内で講義番号を入力させることで、誤回答を除外して結果を集計するようになるかもしれない。
2. 「シラバス記載の学習目標」はアンケート内で参照できないので、あらかじめ調べておいて伝える必要がある。
3. スクリーンに QR コードを映写してもうまく読み込めない。
4. 紙の時と同様、回答率が低い場合は説明を求められる（基準については今後検討）。
5. アンケート実施を忘れない。

【回答率向上につながる TIPS?】

- ・授業時間内で回答させる
- ・教員の岡大 ID で Moodle ログインすると授業評価アンケートの集計結果をリアルタイムに見ることができるので、「回答者数」の表示を映写する。

1. Moodleにアクセス

<https://moodle.el.okayama-u.ac.jp/>

QRコード

又は

岡山大学公式HP
在学生・保護者
の方
Moodle



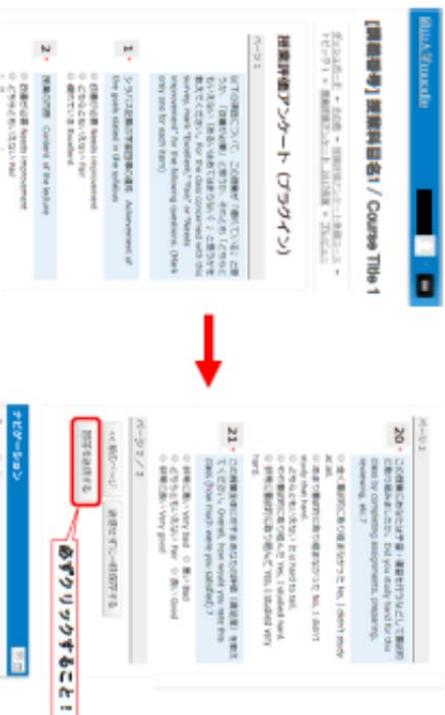
3. 「コース概要」の中から、回答する授業科目をクリックし「授業評価アンケート」をクリック



2. 「ログイン」をクリックし、自分の岡大IDとパスワードを入力し、「Login」をクリック

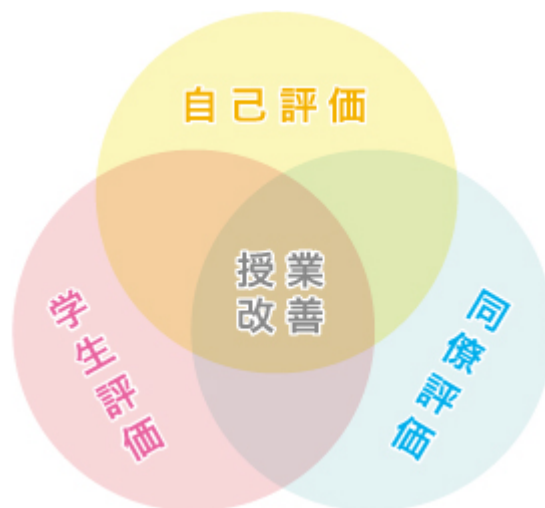


4. 以下の画面が表示されるので、アンケートに回答し、最後に「回答を送信する」をクリック



薬学部 FD 委員会では、「学生」「同僚」「自己」の3者による授業評価を行い、多角的な観点からそれぞれの授業に潜む問題点を抽出し、改善につなげる活動をこれまでにやってきた（右図）。

「学生評価」に関しては、全学アンケートでは収集できない情報を得るために、独自のアンケートを半期ごとに実施している。「自己評価」についても、「学生評価」と同様に半期ごとに実施し、2015 年度からは学生評価と自己評価のミスマッチを抽出するクロス評価を新たに始め、各教員にフィードバックすることで授業改善を支援している。「同僚評価」は年度内の任意のタイミングで、1 回実施してもらうように依頼している。



3 者評価に基づく授業改善の概念図

「学生評価」については、2017 年度から Google フォームを利用したウェブアンケートとして実施してきた。結果集計がかなり省力化できて有用であったため、「同僚評価」と「自己評価」についてもウェブ（Moodle）で実施できるよう、体制を整えた。「学生評価」についても 2018 年度 3・4 学期分からは Google から Moodle に移行し、すべてのアンケートを Moodle で行うようにした。それぞれの詳細については以降に述べる。

2-3-1. 学生による授業評価（薬学版）

2017 年度から継続して、13～14 ページに示す内容で、学生の予・復習状況を把握するためのアンケートを実施した。結果を補足資料 2 に示す。

1 年生については、昨年度の学生に比べるとあまり予・復習をしない学年のようである。ただ、3・4 学期のアンケート結果では、僅かではあるものの深く予習をして授業に臨む学生数が増え、予習・復習をしないと回答した学生の割合も減少したことから、改善の兆しも見受けられる。2、3 年生については、学年が上がるとともに予・復習する割合が下がっていくという、昨年度と同様の結果が得られた。2 年生 1・2 学期で、ほぼ半数の学生が講義直後に復習すると回答したのは素晴らしかったが、3・4 学期では 27%と残念ながら半減してしまった。ただ 3 年生 3・4 学期の結果を見ると、深く予習をして授業に臨む学生が復活し、予習しない学生の割合も 78%から 68%に低下している。自由記述では「授業数が少なかったので復習しやすかった」という意見もあり、2 年生～3 年生 3 学期あたりまではかなりタイトに授業が詰まっていることも、予・復習の割合を下げる一因なのかもしれない。4 年生は薬学科を対象とした臨床系の授業が主であり、自身の興味と授業内容が合致するためか、予習して授業に臨む学生数が増えるのも昨年度と同様であった。

自由記述では、予習範囲の提示を求める声が多いようである。教科書が指定されている授業科目であれば、シラバスから次回授業の内容（＝予習範囲）が自ずと分かるのではないと思われるが、学生はそうは考えないのかもしれない。ゆとりのある時間割で授業できるのは教員側も望むところであるが、現実的には困難である。予習した上で授業に臨ませて、授業時間内での内容の理解度を高めさせることが、特にスケジュールの詰まった学年に対しては必要なのかもしれない。

薬学部教務委員会（学生用）

[ダッシュボード](#) ▶ [コース](#) ▶ [学内活動 / Campus activity](#) ▶ [薬学部教務委員会（学生用）](#) ▶ [授業評価アンケート](#) ▶ [1年次（平成30年度3, 4学期）](#) ▶ [アンケートに答える...](#)

平成30年度3,4学期アンケート（1年次）

 [空欄を印刷する](#)

1 * 学科を選択してください。

- ☐ 薬学科
- ☐ 創薬科学科

2 * 平成30年度3,4学期に開講された講義の予習はどれくらいしましたか。

- ☐ 例題を説くなど深く予習をしている
- ☐ 授業の範囲内を一通り、目を通すくらいである
- ☐ 予習はしない

3 * 平成30年度3,4学期に開講された講義の復習はどれくらいしましたか

- ☐ 講義が終わったその日や数日以内に復習している
- ☐ テストの前にのみ復習している
- ☐ 復習はしない

4 平成30年度3,4学期に開講された講義の予習や復習について意見や要望があれば自由に回答ください。

	段落						
パス: p							

5 * 平成30年度3学期のベストクラスを選んでください。

- ☐ 物理化学2（山下）
- ☐ 分析科学3（御船）
- ☐ 細胞生物学1（古田・樹下・宮地）
- ☐ 有機化学3（澤田）
- ☐ 人体解剖学（大塚（医）ほか）
- ☐ 生薬学1（波多野・谷口）
- ☐ 生物化学2（古田・安井）
- ☐ 生物化学3（児玉）

6 上記3学期のベストクラスを選択した理由について、自由に回答してください。

	段落						
パス: p							

7 * 平成30年度4学期のベストクラスを選んでください。

- 物理化学3（井上）
- 分析科学4（上田）
- 細胞生物学2（古田・樹下・宮地）
- 有機化学4（澤田・神野）
- 生物化学4（児玉）
- 無機化学（神野）
- 生薬学2（波多野・谷口）

8 上記4学期のベストクラスを選択した理由について、自由に回答してください。

	段落						
パス: p							

回答を送信する

全教員に対し、下記に示す内容で同僚評価を依頼した。2018 年度には 15 件の同僚評価が行われ、昨年度同様、すべて動画視聴によるものであった。件数は昨年度より 4 件増加した。

結果は補足資料 3 に示す。

[ダッシュボード](#) ▶ [コース](#) ▶ [学内活動 / Campus activity](#) ▶ [薬学部FD委員会（教員用）](#) ▶ [平成30年度ピアレビュー（同僚評価）](#) ▶ [平成30年度ピアレビュー](#) ▶ [アンケートに答える...](#)

 空欄を印刷する

[illegible]

視聴・参観方法を選んでください。

- 動画視聴 ● 授業参観

2 * 視聴・参観した科目名（担当者名）を入力してください。
（例： 有機化学1（竹内））

3 * 視聴・参観した科目の開講日時-時限を入力してください。
(例：2018/4/1-1,2時限)

4  視聴・参観に要した時間（分）を記入してください。

Do not use thousands separators.

5 好印象を与えた点をコメントしてください。

6 改善の余地がある点をコメントしてください。

	段落						
パス: p							

7 * 全体的な感想をコメントしてください。

	段落						
パス: p							

8 本授業の中で、今後のご自分の授業に取り入れたいと思われた教授法について、コメントしてください。

	段落						
パス: p							

回答を送信する

2-3-3. 自己による授業評価

昨年度までの自己評価アンケートは、学生評価（全学版）の設問に対して、「問題なし」か「改善が必要」を教員が回答する形式をとっていた。ともすればすべて「問題なし」を選択して形骸化しがちであったため、自己評価と学生評価の結果を FD 委員会でつき合わせ、学生と教員間の意識に乖離（教員は問題なしと思っているが、学生は改善が必要と思っている）が認められる項目を抽出し、教員に意識改革を促すクロス評価を実施していた。しかしながら、今年度からは学生評価（全学版）アンケートがウェブで実施されるようになり、教員はその結果をリアルタイムで知ることができるようになった。そこで今年度は、自己評価の際に各教員自身でクロス評価も行ってもらうような設問に変更したアンケート（18～19 ページ）を作成し、全教員に対して回答を依頼した。

結果を補足資料 4 に示す。2018 年度の自己評価としては 99 件の回答があり、これは昨年度（50 件）のほぼ倍の件数である。昨年度まではワードファイルに記入して、メールで回答を受け付けていたが、今年度からウェブ回答となった。実習系の授業など、昨年度までは対象外であった授業の回答数も含んではいるものの、ウェブ化により回答数が増えたものと推察できる。また「改善した項目がある」の回答者数も多く、昨年度よりは授業改善に取り組んだ教員が多かったことは好ましい結果であった。

授業評価アンケートの「数字」だけを過度に注目することには注意しつつ、次年度以降は、「改善した項目」が学生に伝わっているかどうかを検証するような自己評価が出来ればと考える。

薬学部教務委員会（教員用）

[ダッシュボード](#) ▶ [コース](#) ▶ [学内活動 / Campus activity](#) ▶ [薬学部教務委員会（教員用）](#) ▶ [自己評価](#) ▶ [自己評価対象科目（1科目目）（平成30年度）](#) ▶ [プレビュー](#)

[プレビュー](#)

[あなたの回答](#)

[全回答の閲覧](#)

[非回答者](#)

アンケートのプレビュー

科目（1）

- 1 * 授業科目名を入力してください。

- 2 * 担当時間／総時間を記入してください。

- 3 * 初回の授業で、授業計画と講義内容（およびその変更）について説明しましたか。

☐ はい ☐ いいえ

- 4 学生評価と自己評価を比較いただきたいと思います。各自の授業科目にアクセスして「学生による授業評価アンケート(全学)」の結果をご確認いただき、**学生評価と自己評価が乖離していたと思われる項目をチェック**（複数回答可）してください。なお、下記の項目番号は、授業評価アンケート回答の項目番号と一致しております。

- ☐ (1) シラバス記載の学習目標の達成
- ☐ (2) 教員の説明のわかりやすさ
- ☐ (3) 板書やスライドのわかりやすさ
- ☐ (4) 教材(教科書やプリントなど)
- ☐ (5) 授業のスピードや分量
- ☐ (6) 自習方法の指示
- ☐ (7) 教員の熱心さ
- ☐ (8) 学修しやすい環境づくり(私語対策等)
- ☐ (9) 教員からの問いかけや対話
- ☐ (10) 成績評価の方法
- ☐ (11) 学生の意欲
- ☐ (12) 授業全体に対する評価（満足度）
- ☐ (13) 授業についての自由記述コメント

- 5 * 今年度の授業において、問4の項目(1)-(10)で改善した項目はありますか。

- ☐ 改善した項目がある
☐ 改善しなかった
☐ 該当しない(初年度の担当等)

- 6 改善した項目がある場合は、問4の項目(1)-(10)から最も改善した項目を1つ選び、その「項目番号(1つ選択)」と「改善内容」を簡潔に記してください。(例：(2) 演習時間を増加した)

	段落						
パス: p							

- 7 * 継続的な授業改善のため、プリント・板書・スライド等の内容の見直しを行いましたか。
- ☐ 行った ☐ 行っていない ☐ 該当しない(初年度の担当等)
- 8 * 授業改善のため、最終成績と他の学習要因（例えば、出欠回数、小テスト成績、質問回数等）との関連性を検討しましたか。
- ☐ 行った ☐ 行っていない
- 9 * 自他を問わず、授業撮像データを閲覧し、授業改善に活かしましたか。
- ☐ 撮像データを閲覧し、授業改善に活かした。
☐ 撮像データを閲覧したことはあるが、授業改善に活かしたとはいえない。
☐ 撮像データを閲覧したことがない。
- 10 * 成績に含める試験（小テストを含む）を実施する場合、試験座席で行いましたか。
- ☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない
- 11 * 中間・期末試験の試験監督において、教員は最低1人含まれていましたか。
- ☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない
- 12 * 中間・期末試験の試験監督の総数は、規定数を満たしていましたか。

(参考) 中間・期末試験における試験監督数

受験者数 1名～87名 → 監督者数 2名

受験者数 88名～ → 監督者数 3名

☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない

プレビューを送信する [リセット](#)

3. FD フォーラム

2018 年度には下記に示す 4 回の FD フォーラムを実施した。なお参加者数には、撮像データを視聴してレポートを提出した者を含んでいる。

平成 30 年 7 月 26 日（木）16：30～18：00

「AO 入試を考える ～御茶ノ水女子大学新フンボルト入試の事例」

【講師】御茶ノ水女子大学 安成英樹 入試推進室長・教授（文教育学部）

参加者は 30 名。御茶ノ水女子大学では、新型 AO 入試制度として、一次選抜のプレゼミナールと二次選抜の図書館入試・研究室入試試験を組み合わせた新フンボルト入試が実施されており、単なる知識ではなく、知識を活用・応用できる能力を測る入試制度として注目されている。その制度立ち上げから実際の運用まで携わって来られた安成教授から、これまでの経験や現状、今後の課題など多岐にわたる話題を提供いただき、今後の薬学部における AO 入試改革について議論した。

平成 31 年 2 月 14 日（木）16：00～18：00

「新コアカリ対応実務実習における責任教員の業務と実務実習指導・管理システムの説明
および CBT 問題作成における注意事項」

【講師】有吉教授、藤吉准教授、松本助教、合葉准教授

参加者は 37 名。平成 31 年 2 月から始まる新コアカリに基づく実務実習とこれまでの実務実習との違い、学生の実習進捗を確認する責任教員の業務内容、進捗確認や指導薬剤師との連絡に使用する「実務実習指導・管理システム」の使用法などについて、有吉教授、藤吉准教授、松本助教から説明を受けた。また 2019 年度には CBT の作問担当が割り当てられているため、問題作成における注意事項について、合葉准教授より説明を受けた。

平成 31 年 2 月 18 日（月）16：30～18：00

「薬剤師の将来展望～求められる資質とは？」

【講師】厚生労働省 医薬・生活衛生局総務課 安川孝志 薬事企画官／医薬情報室長

教員の参加者は 33 名。薬剤師・薬局に関する最近の状況、国として検討中の制度改正について、薬剤師に期待すること、などについて紹介を受け、今後の学部教育の方向性について議論した。薬剤師（薬局）発案の研究がもっとあっていいし、出来るはずだというのが印象的であった。学生にも開放し、10 名程度とさびしい人数であったものの、参加した人達には貴重な経験になったことを期待したい。

平成 31 年 3 月 14 日（木）16：00～17：30

「薬学教育評価とカリキュラムと入試について」

【講師】竹内教務委員長・薬学教育評価委員長、山下入試委員長

教員の参加者は 31 名。薬学教育評価については、事務担当の協力も必要不可欠であるため、教職員合同の FD・SD フォーラムとして実施し、竹内薬学教育評価委員長より、第 2 期薬学教育評価に向けての資料作成スケジュールや分担についての詳細な説明を受けた。続いて竹内教務委員長より、2019 年度入学者を対象とした新カリキュラムの趣旨と教育方針についての説明を受けた。最後に山下入試委員長より、2020 年度入試における変更点や全学対応について説明を受けた。

なお、本フォーラムの一部は津島キャンパス（薬学部第一講義室）と鹿田キャンパス（融合棟第一演習室）とを結ぶ遠隔講義システムを利用して行った。この遠隔講義システムは 2019 年 4 月以降の臨床準備教育でも使用予定であり、通信や撮像に支障がないことが確認できた。

これまでに開催したFDフォーラム一覧

回	日時	内容
1	平成 15 年 9 月 1 日 (月) 13 : 30 ~ 15 : 30	● 新入教員のための講習会 ・ 「カリキュラムとは」 講師 竹内靖雄 (FD 委員会委員) ● 教育を考えるフォーラム 総合司会 岡本敬の介 (FD 委員会委員長) ・ 「シラバスを考える」 話題提供 竹内靖雄 ・ 「教授法・勉学環境を考える」 話題提供 岡本敬の介 ・ 「授業評価を考える」 話題提供 綿矢有佑
2	平成 16 年 9 月 1 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 30	● 新入教員のための講習会 竹内靖雄 (FD 委員会委員) ● 教育を考えるフォーラム 「達人に学ぶ」 総合司会 齋藤 寛 (FD 委員会委員長) ・ 達人 亀井千晃教授 ・ 達人 川崎博己教授 ・ 達人 勝 孝 助教授 ・ 達人 吉田隆志教授
3	平成 17 年 9 月 28 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 30	● 新入教員のための講習会 竹内靖雄 (FD 委員会委員) ● 教育を考えるフォーラム 「共用試験を考える」 総合司会 佐々木健二 (FD 委員会委員長) ・ 話題提供 「共用試験について」 木村聡城郎 教授 「C B T について」 成松 鎮雄 教授 「O S C E について」 黒崎 勇二 教授 ・ 総合討論
4	平成 18 年 9 月 27 日 (水) 15 : 30 ~ 18 : 00	総合司会 佐々木健二 (FD 委員会委員長) ● 新入教員のための講習会 竹内靖雄 (FD 委員会委員) ● 教員組織の変更について 木村聡城郎薬学部長 ● メンタルヘルスとその支援 【話題提供】 教育実践総合センター 塚本千秋 先生 【総合討論】
5	平成 19 年 3 月 8 日 (木) 13 : 00 ~ 16 : 30	● 「チュートリアル授業の理解のために」 総合司会 佐々木健二 (FD 委員会委員長) ● 「ミニワークショップ」 ・ ワークショップとは・問題提起・S G D・ミニレクチャー・S G D・発表・全体討議 【タスクフォース】 医学部医学科 大塚愛二 先生
6	平成 19 年 6 月 26 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00	● 「学生のメンタルヘルス」 講 師 保健環境センター 大西 勝 先生

7	平成 19 年 9 月 10 日(月) 13:00~17:30	● 「新任教員のためのFD講習会」 ● 「ミニワークショップ」 タスクフォース FD委員会委員 ・ワークショップとは・SGD:良いシラバスとは・SGD:良い授業とは・SGD:正しい授業評価とは・全体討議・感想
8	平成 20 年 9 月 24 日(水) 9:00~12:30	● 「CBT試験問題作成と精選」 薬学部CBT委員会主催
9	平成 20 年 10 月 22 日(水) 15:00~17:30	総合司会 佐々木健二(FD委員会) ●新任・転任教員講習会 竹内靖雄(FD委員会) ●ハラスメントを防ぐには 埴岡伸光(学生生活委員) ●高校との信頼関係を構築するには 【話題提供】ベネッセコーポレーション 木野内俊典先生
10	平成 20 年 12 月 11 日(木) 16:00~17:30	●学生参画フォーラム テーマ 新しい授業を創ろう 対 象 薬学部2年次生 方 法 アンケート結果に基づき、薬学部に必要なとされる新授業を創る。 連 絡 薬学部学生・教員FD検討会 杉本
11	平成 21 年 4 月 3 日(金) 13:00~16:00	●有効なSGD(スモールグループディスカッション)実施に向けて ワークショップ 【タスクフォース】黒田・名倉・四宮・北村(佳)
12	平成 21 年 5 月 28 日(木) 16:00~17:30	●薬学部耐震改修構想における philosophy—FDの観点から見る新薬学部棟における研究・教育の新展開— 【話題提供】改修WG委員 成松 【質疑応答】改修WG委員 成松・忠田
13	平成 21 年 10 月 28 日(水) 15:30~17:30	● 「新任転任教員研修会」 担当 中尾 浩史 ● 「メンタルヘルスとハラスメント」担当 榎本 秀一 講師 岡山大学保健管理センター准教授 大西 勝 先生 講師 岡山大学保健管理センター講師 清水 幸登 先生
14	平成 21 年 12 月 9 日(水) 16:00~17:30	【テーマ】 「創薬科学科教育考」 — 創薬科学科教育の過去・現在・未来 — 【話題提供】 薬学部FD委員会委員長 竹内 靖雄 ・創薬科学科教育の足跡 ・創薬科学科教育の問題点 ・創薬科学科の将来展望 ・創薬科学科のDP→CP→AP

15	平成 21 年 12 月 17 日(木) 16:00～17:30	●学生参画フォーラム テーマ 授業評価アンケートを創ろう 対 象 薬学部 2 年次生 方 法 スモールグループディスカッションにより新授業評価アンケートを創る。 連 絡 薬学部学生・教員 F D 検討会 杉本 幸雄
16	平成 22 年 7 月 14 日(水) 15:30～18:30	● 「新任転任教員研修会」 担当 杉本 幸雄 ● 【テーマ】大学院教育における F D を考える 【話題提供】 薬学部 F D 部会長 榎本 秀一
17	平成 22 年 11 月 25 日(木) 16:15～18:00	【テーマ】 「そんな(に)授業をしたいですか!？」 — 授業仕分けの進捗状況 — 【話題提供】 薬学部教務部会長 竹内 靖雄
18	平成 23 年 4 月 27 日(水) 14:20～16:20	【テーマ】 「東北では、今。薬学教員としての現場からのレポート」 【話題提供】 名倉 弘哲
19	平成 23 年 6 月 10 日(金) 16:15～17:45	【テーマ】 「授業改善論: 1、2 年生による S G D」 【タスクフォース】薬学科 1 年: 田中 智之、薬学科 2 年: 上原 孝、創薬科学科 1 年: 井上 剛、創薬科学科 2 年: 竹内 靖雄
20	平成 23 年 9 月 14 日(水) 16:00～18:00	【テーマ】 「授業改善論」 新任教員 F D 研修(F D 部会・田中 智之) 【話題提供】 教養教育科目の開講の現状(教務部会長・竹内 靖雄) シラバスと成績評価(F D 部会長・田中 智之) 授業改善論(学生、教員アンケートをもとに)
21	平成 23 年 10 月 5 日(水) 16:00～17:30	【テーマ】 「授業改善論 2」 【話題提供】 授業改善論(学生、教員アンケートをもとに) 成績不振者への対応(教務部会長・竹内 靖雄) 新国家試験の対応は?(同上・竹内 靖雄)
22	平成 23 年 11 月 30 日(水) 16:00～18:00	【テーマ】 「大学院教育 F D ・第 2 回」 【話題提供】 ハラスメント防止に関する講習会(杉本 幸雄) ハラスメント事例について(学部長・森山 芳則) 大学院における F D を考える(副研究科長・榎本 秀一)
23	平成 24 年 2 月 8 日(水) 16:00～18:00	【テーマ】 入試を考える 【話題提供】 博士前期課程入試の制度と現状(入試委員長・宮地 弘幸) 学部入試を考える(薬学入試部会長・勝 孝) 入試区分別に解析した学生の成績変化(教務部会長・竹内 靖雄)

24	平成 24 年 4 月 25 日(水) 16:00~18:00	【テーマ】 研究倫理 【話題提供】 F D 部会長・田中 智之
25	平成 24 年 5 月 23 日(水) 16:00~18:00	【テーマ】 研究倫理 2 【話題提供】 F D 部会長・田中 智之、教務委員長・竹内 靖雄
26	平成 24 年 6 月 20 日(水) 16:00~17:30	【テーマ】 研究倫理 3 【話題提供】 F D 部会長・田中 智之
27	平成 24 年 10 月 16 日(火) 16:00~18:00	【テーマ】 「岡山大学の薬学教育を考える！！」 【話題提供】 講師 錦織 宏(京都大学医学研究科医学教育推進センター)
28	平成 24 年 1 月 9 日(水) 16:00~19:00	【テーマ】 「人材への社会ニーズと競争力」 【話題提供】 講師 安西 智宏 (東京大学薬学研究科ファーマコビジネスイノベーション) S G D ・発表を実施
29	平成 24 年 1 月 29 日(火) 16:00~18:30	【テーマ】 「薬学部における人材育成のあり方とは？」 【話題提供】 狩野 光伸
30	平成 25 年 7 月 29 日(月) 16:00~18:30	【テーマ】 「薬学のディシプリン」 【話題提供】 古矢 修一先生 前) 武田薬品工業株式会社医薬研究本部リサーチフェロー 現) 岡山大学リサーチ・アドミニストレーター (URA)
31	平成 25 年 10 月 1 日(火)	【テーマ】 「企業の医薬研究開発に従事して 33 年」 【話題提供】 加藤 泰己 ナノキャリア株式会社 取締役 CSO
32	平成 26 年 1 月 30 日(木)	【テーマ】 「外資系製薬企業における実践」 【話題提供】 相徳 泰子 バイエル薬品(株) マーケットアクセス本部 本部長代理
33	平成 26 年 3 月 19 日(水)	【テーマ】 「平成 27 年度新カリキュラムの実施に向けて」 【話題提供】 竹内靖雄, 黒田 照夫, 須野 学(教務委員会)
34	平成 26 年 5 月 16 日(木)	【テーマ】 「アジアの薬学教育: AASP と国際連携」 【話題提供】 菅家 甫子(かんけ もとこ) アジア薬科大学協会 (Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP)) 専務理事 共立薬科大学名誉教授、慶應義塾大学薬学部客員教授、

35	平成 26 年 7 月 1 日 (木)	【テーマ】 「薬学の倫理教育を考える」 【話題提供】 川村 和美 シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社 教育研修部部長
36	平成 27 年 3 月 5 日 (木)	【テーマ】 平成 27 年度新カリキュラムの概要と平成 28 年度新カリキュラムの立案に向けて (平成 25, 26 年度新人教員 F D 研修会を兼ねる) 【話題提供】 竹内靖雄 (教務・F D 委員会)
37	平成 27 年 9 月 25 日 (木)	【テーマ】 新カリキュラムに向けた薬学教育考 ー 学力保証と成績評価についてのワークショップ ー 【話題提供】 竹内靖雄 (教務・F D 委員会)
38	平成 27 年 11 月 2 日 (月)	【テーマ】 薬学教育改革セカンドステージ 【話題提供】 中村 明弘 昭和大学薬学部 薬物療法学講座薬剤学部門 教授
39	平成 27 年 11 月 27 日 (月)	【テーマ】 学生支援に活かすコーチング 【話題提供】 野呂瀬 崇彦 北海道薬科大学薬学部 薬学教育分野 准教授
40	平成 28 年 2 月 24 日 (月)	【テーマ】 第 5 期科学技術基本計画の概要 ～科学技術イノベーションで大変革時代を切り拓く～ 【話題提供】 中川 健朗 内閣府大臣官房審議官
41	平成 28 年 3 月 17 日 (木)	【テーマ】 薬学教育の過去・現在・未来 ー 学部入試から大学院入試まで ー 【話題提供】 竹内教務委員長, 黒崎教育担当副学部長, 山下入試委員長, 田中教授
42	平成 29 年 2 月 16 日 (金) 16 : 15 ~ 18 : 00	「新しいモデルコアカリキュラムに基づく薬学臨床教育」 【話題提供】 鈴木 匡 名古屋市立大学大学院薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 教授
43	平成 29 年 3 月 16 日 (木) 16 : 20 ~ 18 : 00	「学生のメンタルヘルス」 【話題提供】 清水 幸登 岡山大学保健管理センター准教授
44	平成 29 年 10 月 17 日 (火) 16 : 30 ~ 18 : 00	「ライフサイエンス研究分野におけるコーチングの必要性」 【話題提供】 竹本 佳弘 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科・生命理工学系専攻 疾患予防科学コース 特任教授
45	平成 30 年 2 月 9 日 (金) 16 : 30 ~ 18 : 00	「薬学英語プレゼンテーションスキル講座」 【話題提供】 フィリップ ホーク (Hawke, Philip) 静岡県立大学 薬学部 科学英語分野 准教授

46	平成 30 年 3 月 20 日 (火) 16 : 00～17 : 30	【テーマ】薬学教育の過去・現在・未来 (2) ー 学部入試から薬学教育評価まで ー 【話題提供】竹内教務委員長・薬学教育評価委員長, 黒崎教育担当副学部長
47	平成 30 年 7 月 26 日 (木) 16 : 30～18 : 00	「A0 入試を考える ～御茶ノ水女子大学新フンボルト入試の事例」 【話題提供】安成 英樹 御茶ノ水女子大学 入試推進室長・教授 (文教育学部)
48	平成 31 年 2 月 14 日 (木) 16 : 00～18 : 00	【テーマ】新コアカリ対応実務実習における責任教員の業務と実務実習指導・管理システムの説明および CBT 問題作成における注意事項 【話題提供】有吉教授, 藤吉准教授, 松本助教, 合葉准教授
49	平成 31 年 2 月 18 日 (月) 16 : 30～18 : 00	「薬剤師の将来展望～求められる資質とは？」 【話題提供】安川 孝志 厚生労働省 医薬・生活衛生局総務課 薬事企画官／医薬情報室長
50	平成 31 年 3 月 14 日 (木) 16 : 00～17 : 30	【テーマ】薬学教育評価とカリキュラムと入試について 【話題提供】竹内教務委員長・薬学教育評価委員長, 山下入試委員長